

表 2-6 監視の一覧

調査村	内容		
	森林団 構成員数 (人)	監視班	監視の頻度
Napo 村	2	自警団, 防衛団, 森林団 *問題があれば土地管理担当も参加. *自警団と防衛団はそれぞれローテーションを決めて参加. *防衛団は武器を保有して参加する.	2カ月に1回 *季節によって頻度が異なる. 雨季は少なく, 乾季は多い.
Kouay 村	3	自警団, 防衛団, 土地管理団, 森林団 *自警団から2人, 防衛団と土地管理担当から1人ずつ参加. *たまに副村長(経済担当)も参加. また問題があれば村長も参加. *防衛団は武器を保有して参加する	1カ月に1回 *季節によって頻度が異なる. 雨季は少なく, 乾季は多い.
Houytom 村	2	自警団, 防衛団, 森林団, 村長 *問題があれば土地管理担当も参加. *自警団と防衛団はそれぞれローテーションを決めて参加. *防衛団は武器を保有して参加する.	1カ月に2回 *季節によって頻度が異なる. 雨季は少なく, 乾季は多い.

出所：現地調査から筆者が作成.

表 2-7 処罰の一覧

調査村	処罰の内容
Napo 村	<ul style="list-style-type: none"> ・胸高直径20cmの違反伐採は1本につき2,000,000kip, 30cmは3,000,000kipの罰金. ・1年期の竹を伐採する場合, 1本につき5,000kipの罰金. ・自家消費以外の筍の採取した場合, 1本につき5,000kipの罰金. ・村落共有林内の開墾や道路を開通させた場合, 伐採したもの全てを上記の額で計上して罰金. ・違反者は, 会議に呼び出され, 尋問を受ける.
Kouay 村	<ul style="list-style-type: none"> ・SNVのプロジェクトサイトで1年期の竹を採取した場合の場合, 1本につき1,000kipの罰金. ・SNVのプロジェクトサイトで樹木の伐採も禁止されているが, 過去に実例がなく, 金額は定まってない. 生じた場合は, 村落会議で議論し金額を決める.
Houytom 村	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の伐採は禁止されているが, 非林産物は採取自由. ・リーダーに無許可で, 樹木を伐採した場合は罰金.

出所：現地調査から筆者が作成.

処罰に関しては、3村落に共通して、一年期の竹と販売目的の非木材林産物の採取、樹木の伐採は制限されており、罰金が設定されている（表2-7を参照）。また、Houyтом村は、Afzelia Xylocarpaの伐採を禁止している。表2-7を見ると、Kouay村は、処罰においても、他村と比べてルールが緩い。一方で、Napo村は、村落会議にて違反者の尋問を実施しており、比較的厳密なルールを設定している。

3 考 察

第3節では、前節の分析結果を踏まえて考察を加えていく。3村落では、フリーライダーの発生を抑制するために、互惠性の規範を利用した2つの制度設定がみられた。1つ目は、村落共有林の利用と管理において、役割ごとで分業して小集団として活動していることである。このことで、メンバーが相互に相手の行動を監視でき、フリーライダーが発生するのが困難な状況をつくることができる。2つ目は、管理活動に参加しない者に対して処罰を科することである。Kouay村では金銭的なものではなく、口頭での注意のみであるが、Napo村とHouyтом村は、会議に参加しない者に対して金銭的な罰金を科している。Napo村では、村長、副村長、老人団、女性団、若人団のリーダーが違反者に尋問を行い、さらに全体会議で罰金を科すことになっている。この制度は、違反者に対して、単に金銭的な損失を与える、他の村民からの信頼を失うこと等の精神的な損失も与えるので、フリーライダーの発生を抑制するのに有効なものである。

また、そのような仕組みの上で、3村落のコミュニティ・ガバナンスでは、資源の利用自体に制限を設ける配分ルール、違反者が現れないように監視する監視ルール、および違反者に対して処罰を科する処罰ルールを設計していた。一方で、Kouay村では、村落共有林の利用と管理について、比較的厳密な制度設定を行っていないことが明らかになった。しかしながら、Kouay村の村長いわく、いまだに問題となる利用をしたものはいないという。これには、いくつか考えることができるだろう。

はじめに、Kouay村は、他の2つの村落と比べて、村落共有林の面積が大きい。それゆえに、森林資源についての競合性があまり高くないので、幾分か緩く制度を設定しても問題とならない。

つぎに、Kouay村は、他の2つの村落と比べて、村落としての歴史が長く、さらに他の地域からの移住者が少ない。また、Kouay村は、居住世帯の約9割がラオ族であり、民族間での意思統一にかかる費用が低くてすむ。これらのことを考慮すると、Kouay村は、厳密な制度設計を行わずとも、村民同士のネットワークが密に形成されており、フリーライダーの発生を抑制することに寄与していると考えられる。ネットワークが広く張りめぐらされているほど村民が処罰を加えられる場合に他者からの信頼を失うことで感じる精神的な損失が大きい。一方で、他の2村は、村落の設立が比較的遅く、移住者も多く、さらに移住者の中には山腹地域であるラオトゥンの

民族が Kouay 村よりも多い。このために、比較的厳密な制度設計を行わなくてはならないと考えられる。

おわりに

本稿は、ラオス平地部において村落共有林がコミュニティ・ガバナンスによって十分に管理・運営されているかを考察してきた。ラオス政府では、個人や組織・団体の民間部門に対して土地の使用権を配付して私的な土地利用を部分的に認可している一方で、地域のコミュニティである村落に対しても共有地として土地の使用権を配付して、土地利用を認可している。

本稿では、村落で共有に利用している森林、村落共有林をコモンプールとして捉えて、どのようにして村落のコミュニティ・ガバナンスが管理、運営を行っているかに着目した。Olson (1963) の視点に立てば、コミュニティ・ガバナンスによるコモンプールの管理は、管理活動に参加せずに資源だけを採取するフリーライダーの存在のために上手くいかないであろう。その一方で、本稿は、社会関係資本の視点を組み入れることで、コミュニティ・ガバナンスは、フリーライダーの発生を抑制しながら、コモンプールを管理することができる事例があることを示した。

また、本稿では、村落共有林事業を実施しているビエンチャン都サントン郡の Napo 村、Kouay 村、Houytom 村を事例に取り上げた。そこで、第1節の分析にもとづき、加えて藪田 (2004) や寺出 (1993) による持続可能なコモンプールの条件を用いて、3村落におけるコミュニティ・ガバナンスを分析した。分析の結果、3村落のコミュニティ・ガバナンスでは、差異点はありながらも、フリーライダーの発生を抑制するように制度設定を行っていることを示した。さらに、3村落のコミュニティ・ガバナンスは、配分・監視・処罰についてのルールを設定して、村落共有林を過剰に利用しないように管理を行っていることが明らかになった。

一方で、Koauy 村では、制度が厳密に設定されていなかった。これは、村落設立が古く、居住世帯に占める移住者の割合が少なく、また民族構成としては約9割の世帯がラオ族であるために、新たに制度設定をせずとも、村落の中で共有されている社会的な規範が他の2村落よりも機能しているからと考えられる。これらの関係性については、定量的に明らかにする必要があり、その課題については別稿を期したい。

[謝辞] 本稿を執筆するに当たり、貴重なご意見を数多くいただいた指導教授の中央大学経済学部緒方俊雄教授、藪田雅弘教授、そして研究会等でお世話になっている原山保准教授、松谷泰樹兼任講師に感謝申し上げます。

参考文献

綾部恒雄・林行夫・上田玲子 (1996) 「民族と言語」綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいラオス』東京：

- 弘文堂, 44-69ページ.
- 井上真 (2000) 「東南アジア諸国における参加型森林管理の制度と主体」『林業経済研究』第46巻1号, 林業経済学会, 19-26ページ.
- 稲葉陽二 (2011) 『ソーシャル・キャピタル入門: 孤立から絆へ』東京: 中公新書.
- 上田利男編著 (1975) 『小集団活動の理論と実際』東京: 日本労務研究会.
- 宇沢弘文 (2000) 『社会的共通資本』東京: 岩波新書.
- 大矢 (1998) 「森林・林野の地域社会管理: ラオスにおける土地・林業配分事業の可能性と課題」環境経済・政策学会編『アジアの環境問題』東洋経済新報社, 265-278ページ.
- 緒方俊雄 (2010) 「社会的共通資本と共同体 (生態村) ガバナンス」『中央大学経済研究所年報』第41号, 中央大学経済研究所, 1-36ページ.
- 高村学人 (2012) 『コモンスからの都市再生: 地域共同管理と法の新たな役割』東京: ミネルヴァ書房.
- 千頭聡 (1999) 「ラオス焼畑地帯における農村の社会経済状況に関する研究」『農村計画論文集』農村計画学会, 217-222ページ.
- 千頭聡・仁連孝昭 (1994) 「環境保全と社会開発との統合による地域管理システムの構築: ラオス北部焼畑地域を例として」『社会・経済システム』社会・経済システム学会, 第13号, 97-102ページ.
- 寺出道雄 (1993) 「入会と『公有地の悲劇』」『三田学会雑誌』第86巻1号, 慶應義塾大学経済学会, 26-41ページ.
- 名村隆行 (2008) 「土地森林配分事業をめぐる問題」横山智, 落合雪野編『ラオス農村地域研究』東京: めこん, 203-231ページ.
- 東智美 (2009) 「森と農地を分断する「はかり」」「はかる」ことがくらしに与える影響: 東南アジア農村部を脅かす影の力』メコン・ウォッチ, 29-64ページ.
- 百村帝彦 (2001) 「ラオスにおける保護地域管理政策の課題: 地域における実態を反映した実効性のある政策に向けて」『林業経済』第51巻12号, 22-33ページ.
- 百村帝彦 (2003) 「保護地域における森林管理: ラオス南部・サワンナケート県の事例」井上真編『アジアにおける森林の消失と保全』東京: 中央法規, 219-274ページ.
- 松谷泰樹 (2014) 「現代ミクロ経済学の新動向: 進化ゲーム理論とコミュニティ」『経済学論纂』第54巻3・4合併号, 中央大学経済学研究会, 139-184ページ.
- 森朋也 (2013) 「森林コモンスの持続可能なガバナンス」『国際公共経済研究』第24号, 国際公共経済学会, 180-188ページ.
- 森朋也 (2014) 「ラオス平地部におけるコモンプールのジレンマと村落共有林事業: ビエンチャン都サントン郡の事例研究」『中央大学経済研究所年報』第45号, 中央大学経済研究所, 1-32ページ.
- 安井清子 (2009) 「移住地の高度による民族分類」菊池陽子・鈴木玲子・阿部健一編『ラオスを知るための60章 (第二版)』明石書店, 19-22ページ.
- 藪田雅弘 (2004) 『コモンプールの公共政策: 環境保全と地域開発』東京: 新評論.
- 横山智, 落合雪野, 広田勲, 櫻井克年 (2007) 「焼畑の生態価値」河野泰之編『モンスーンアジアの生態史: 第1巻生業の生態史』東京: 弘文堂, 85-99ページ.
- Asia Development Bank (2014) *Key Indicators for Asia and the Pacific 2014*, Mandaluyong: Asia Development Bank.
- Baland, J. M., D. M. Bardhan & R. Sarkar (2007) "Inequality, Collective Action, and the Environment: Evidence from Firewood Collection in Nepal" in *Inequality, Cooperation and Environmental Sustainability*, edited by J. M. Baland, S. Bowles & P. Bardhan, New York: Russell Sage Foundation.
- Bowles, S. (2004) *Microeconomics: Behavior, Institutions, and Evolution*, Princeton: Princeton University

- Press (塩沢由典・磯谷明徳・植村博恭訳『制度と進化のミクロ経済学』(2013) 東京: NTT 出版)
- Bowles, S. & H. Gintis (2002a) "Pro-Social Emotions." *Santa Fe Institute Working Paper*, January.
- Bowles, S. & H. Gintis (2002b) "Social Capital and Community Governance", *The Economic Journal*, Vol.112, No.483, pp.419-436.
- Bromley, D. (1991) *Environment and Economy*, Oxford: Blackwell.
- Gibson, C. C., M. A. Mckean & E. Ostrom (2000) "Explaining Deforestation: The Role of Local Institutions" in *People and Forests: Community, institutions, & Governance*, edited by C. C. Gibson, M. A. Mckean & E. Ostrom, Cambridge, Mass: MIT Press.
- Hardin, G. (1968) "The Tragedy of Commons" *Science*, 162, pp.1243-1248.
- IFAD, PROCASUR Corporation, AIPP. (2012) *Sustainable Bamboo Forestry Management and Communal Land Title in Sangthong District: the Experience of Huay Hnag and Napor Villages*. (http://asia.procasur.org/portfolio_item/lao-pdr-sustainable-bamboo-forestry-management-and-communal-land-titles-in-sangthong-district-lao-pdr/: アクセス日2014年1月31日)
- Janssen, M. A. & E. Ostrom (2004) "Adoption of a New Regulation for the Governance of Common-Pool Resources by a Heterogeneous Population.", in *Inequality, Cooperation and Environmental Sustainability*, edited by J. M. Baland, S. Bowles, & Pranab Bardhan, New York: Russell Sage Foundation.
- Ostrom, E. (1990) *Governing the Commons: the Evolution of Institutions for Collective Action*, New York: Cambridge University Press.
- Ostrom, E., J. Walker & R. Gardner (1992) "Covenant with and without Sword: Self-governance is Possible." *American Political Science Review*, vol. 86, No. 2, pp. 404-417.
- Ostrom, E. (1998) "A Behavioral Approach to the Rational Choice Theory of Collective Action Presidential Address, American Science Association, 1997", *American Political Science Review*, 92 (1), pp.1-22. E. Ostrom and T. K. Ahn eds. (2003) *Foundations of Social Capital*, Massachusetts: Edward Elgar.
- Ostrom, E., T. Dietz, N. Dolsak, P. C. Stern, S. Stonich & U. Weber, eds. (2002) *The Drama of the Commons*, Washington, DC: National Academy Press. (茂木愛一郎・三俣学・泉留維訳『コモンズのドラマ: 持続可能な資源管理論の15年』(2012) 東京: 知泉書館)
- Ostrom, E. & T. K. Ahn, eds. (2003) *Foundations of Social Capital*, Massachusetts: Edward Elgar.
- Putnam, R. D. (2000) *Bowling alone: the collapse and revival of American community*, New York: Simon & Schuster. (柴内康文訳『孤独なボウリング: 米国コミュニティの崩壊と再生』(2000) 東京: 柏書房)
- Putnam, R. D. (1993) *Making Democracy Work: civic traditions in modern Italy*, Princeton University Press. (河田純一訳『哲学する民主主義: 伝統と改革の市民的構造』(2001) 東京: NTT 出版)
- Sayalath et al. (2011) *Toward Communal land Title in Sangthong District, Participatory Development of a Format for Communal land Titles in Four Villages of Sangthong District*, Greater Vientiane Capital City Area, SNV, GDA, GEF, UNDP. (<http://www.snvworld.org/en/countries/lao-pdr/publications/toward-communal-land-titles-in-sangthong-district>: アクセス日2014年1月31日)
- Trivers, R. L. (1971) "The Evolution of Reciprocal Altruism.", *Quarterly Review of Biology*, Vol.46, pp.35-57.